

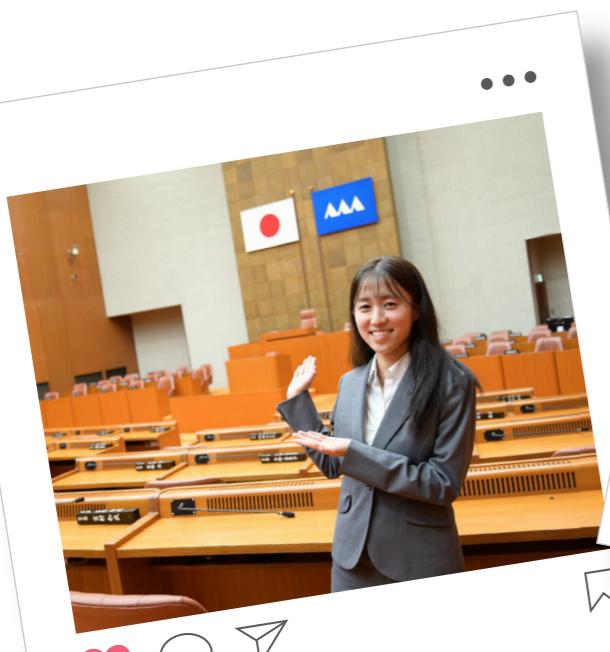
県議会ナビ

vol.10

令和7年12月発行

県議会ナビとは ① 県議会では、若い皆さんに県議会に関心をもってもらうため、平成28年度から年1回、県議会を紹介する広報紙を発行しています。

私たちの 未来のために



#やまがたこども選挙
#模擬投票 #若者の政治参加



#意見交換 #県議会
#小国高校 #身近な県議会

今、できること。

CONTENTS

- ◆ やまがたこども選挙 実行委員長にインタビュー
- ◆ 高校生と県議が語る「小国の未来」
- ◆ 山形県の選挙投票率レポート
- ◆ 県議会へようこそ

県議会へようこそ

県民の皆さんに県議会を身近に感じてもらうため、様々な取組みを進めています。

県議会議員と学校で意見交換！

若い世代の方から議会を身近なものに感じてもらうことを目的に、意見交換会を開催しています。学校の希望に応じてワークショップ形式や質疑応答形式で実施しており、様々なテーマで意見が交わされています。探究型学習や学生サークルなど参加形態は問いません。希望する学校はぜひ、県議会へご連絡ください。



県議会ギャラリーで作品展示！

議会棟1階のロビーを「県議会ギャラリー」として開放しています。県内の児童、生徒、学生の皆さんが学校の授業や部活動などで制作した作品を展示することができます。

【展示対象】工作、絵画、ポスター、書、研究発表 等

【展示期間】1か月以内

詳しくは[こちらから](#)→



生徒・学生の 日ごろの取組みを発表！

多くの方から議会に足を運んでいただけるよう、吹奏楽の演奏会や販売の実習など、生徒・学生の様々な活動を議会棟で発表する機会を設けています。

希望する学校はぜひ、県議会へご連絡ください。



上山明新館高校吹奏楽部による議場演奏会

県議会議員との意見交換会や
県議会ギャラリー
生徒・学生の取組発表については.....

お問い合わせ／県議会事務局議事調査課政策調査室
〒990-8570 山形市松波二丁目8番1号
TEL 023-630-2845 FAX 023-630-2853

県議会ナビの発行に当たっては、わかりやすさ・読みやすさはもちろんのこと、若い方の感性を生かしたデザイン・内容にしたいと考え、山形大学の学生に協力していただきました。より多くの若い皆さんに県議会や政治に興味・関心をもってもらえるとうれしいです。

(編集) 山形県議会広報・広聴委員会
(協力) 山形大学フリーペーパーサークル「Y-ai！」(ヤイ)
4年 小林真子さん(地域教育文化学部)
3年 宮崎由佳さん、片桐悠輔さん(人文社会学部)
2年 藤原真幸さん(理学部)、早川和花さん(農学部)
田口紗衣さん(人文社会学部)

編集後記



広報・広聴委員会の委員

「若者の投票が、こどもや若い世代に優しい世の中につながっていく」

実行委員長の塩谷さんに
インタビューしてみました!

やまがたこども選挙



こども選挙とは

政治への関心を高めるため、投票権のない18歳未満のこどもに模擬投票をしてもらうもの。

山形県では塩谷さんが実行委員長となって、令和7年1月の県知事選挙に合わせて山形市内のショッピングモールで開催。251人のこどもたちが投票しました。

—こども選挙を実施したきっかけを教えてください。

自分も「政治／議員」と聞くと「難しい／こわい」といったイメージを持っていました。でも、大学の講義や議員の方と活動できるインターネットショップを通して、政治って面白いかもとイメージが変わりました。自分は20歳前後で政治に興味を持ちましたが、もっと早い段階から興味・関心を持つてもらいたいなと思い、他県のこども選挙の事例を参考に、山形県でもやってみようと思つて始めました。

—こども選挙を通じて、こどもたちにどのような変化を期待していますか？

実際に投票をしてもらつて、「意外と簡単なんだ」と感じてもらひ、投票に行くことのハーモルが下がればうれしいです。

—こどもたちの反応は？

事前に小学校で出前授業をしたのですが、多くの児童が投票率の低さに驚いて「大人になつたら投票に行く」と語ってくれました。模擬投票後も「初めて投票したけど、雰囲気がわかつて良かつた」といった肯定的な反応が多かつたです。

—若い世代の投票率が上がるところで何が変わると思いますか？

上の世代とは異なる考え方・感覚で若者が投票すれば、政治もより若者に注目するようになり、「こどもや若い世代に優しい世の中につながつていく」と思います。

—最後に、読者に向けてメッセージを。

今、世の中では政治に関するネガティブなメッセージや誤った情報があふれていますが、自分で気になったものを調べてみたりすると、これまでとは違つた見え方がして、政治の楽しい部分や面白い部分も見えてくると思います。ぜひ、一歩踏み出して行動してほしです。

しおや さくら
塩谷咲華さん
山形大学
人文社会学部 4年
福島県福島市出身
■好きなこと
ねこを探す
K-POPを聞く

県議会議員と小国高校生との意見交換会

県議会では、生徒・学生の皆さんから県議会を身近に感じてもらえるよう、県議会議員との意見交換会を開催しています。(詳細は裏面)

9月10日、「地域活性化のために高校生ができること」をテーマに小国高校生が2班に分かれて意見交換を行いました。

意見交換会を終えての感想

加藤さん(右)：議員の皆さんのお話を直接聞いてとてもためになりました。話す中で、自分たちの活動は様々な人の助けを得てできていることを実感しました。

中村さん(中央)：県議会議員というと堅いイメージがありましたら、とてもユーモアがあってイメージが変わりました。自分の意見を尊重しながら話を聞いてくれたと感じました。

伊藤さん(左)：自分たちの活動を議員の皆さんからすごいと言ってもらつて、他にはない活動だと実感しました。

自分たちだからこそ伝えられる魅力を発信していきたいです。



意見交換会を終えての感想

議員からは、「星空や自然、食文化を題材にしたポスターを制作して『一度立ち止まりたくなる町』を全国にPRしたい」、「SNSでの発信を通して『外に出てからも戻りたくなるまちづくり』をしたい」といったアイデアが出されました。

生徒から、「星空や自然、食文化を題材にしたポスターを制作して『一度立ち止まりたくなる町』を全国にPRしたい」、「SNSでの発信を通して『外に出てからも戻りたくなるまちづくり』をしたい」といったアイデアが出されました。

議員からは、「高校生が地域のために行動すること自体が地域を元気づけると思う」、「企業の配達サービスなどと連携すれば、高齢者をサポートできることがあるのではないか」といった意見がありました。

生徒から、「地元スーパーの閉店など買い物に困つている方がいるので、高校生が高齢者の買い物を何か支援できないか」といったアイデアが出されました。

議員からは、「高校生が地域のために行動すること自体が地域を元気づけると思う」、「企業の配達サービスなどと連携すれば、高齢者をサポートできることがあるのではないか」といった意見がありました。

議員からは、「高校生視点の情報発信は重要」、「夜景ビジネスの視点でのPRも面白いかもしない」といった意見がありました。

生徒から、「高校生視点の情報発信は重要」、「夜景ビジネスの視点でのPRも面白いかもしない」といった意見がありました。

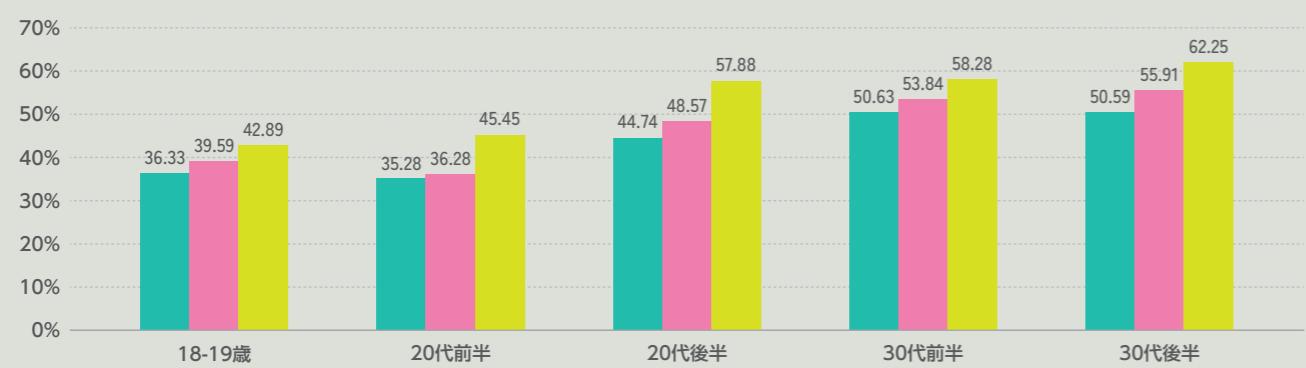
A班の様子



B班の様子



第27回参議院議員通常選挙 年齢別投票率(過去参院選との比較)



山形県選挙管理委員会事務局プレスリリース資料(令和7年9月19日)より作成

投票率は
全国〇位
なんですよ！